

製品名: TM2D1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19025**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	TM2D1 BBP
別名	
遺伝子 ID	83941.0
SwissProt ID	Q9BX74
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

背景

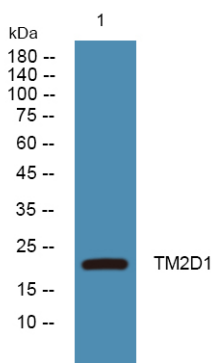
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、 β アミロイドペプチド結合タンパク質です。7つの膜貫通ドメインを持つ G タンパク質共役受容体スーパーファミリーの構造モジュールと関連し、ヘテロ三量体 G タンパク質の活性化に重要なことが知られています。 β

アミロイドペプチドは、アルツハイマー病で観察されるニューロン死と、それに伴う認知能力の低下の原因因子であることが確立されています。このタンパク質は神経毒性のあるβアミロイドペプチドの標的となる可能性があり、Gタンパク質制御性の細胞死プログラムを介して、βアミロイドペプチドの毒性に対する細胞の脆弱性を媒介している可能性があります。この遺伝子には複数の転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2016年2月]、注意：当初はGタンパク質と共役することでβアミロイドの毒性を調節すると考えられていました (PubMed:11278849)。しかし、PubMed:12836168 は、この効果が直接的ではないことを示した。、機能:β-APP42との相互作用を介してβ-アミロイド誘導性アポトーシスに関与する可能性がある。、PTM:N-グリコシル化されている。、類似性:TM2ファミリーに属する。、サブユニット:APPのβ-APP42 (β-アミロイドタンパク質42) ペプチドと相互作用する。、組織特異性:広く発現している。、

研究分野

細胞生物学、アポトーシス、受容体、受容体プロセッシング、シグナル伝達、シグナル伝達経路、Gタンパク質シグナル伝達、GPCR、がん、細胞死

画像データ



SW480 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、TM2D1 ウサギポリクローナル抗体を1:1000に希釈し、4°で一晩